

思考が現実化する。100%例外なく！

TAWPRESS

No. 35
2014.9

国際TAW協会会報誌 <http://www.taw.ac/>

TAWは人生運転メソッド — TAW受講生の感動ストーリー —

歯科医療の現場でTAWを活用しています。

患者さんや
スタッフとのコミュ
ニケーションも各
段に良くなって。

TAWプレスでは毎号、TAWを活かして人生をバージョンアップした方たちの感動ストーリーをお届けします。
まずは、問題を自分のことと捉えることで現実が変化したという
歯科医師の磯部知己さんからお聞きしたお話です。

神奈川県横浜市
デンタルライフクリニック院長
歯科医師 歯学博士

磯部 知己 さん



■ 妻に感化されてTAWを受講

2年前に妻がTAWの講座を受けると、家でTAWの話をよくするようになりました。TAWは「思考の現実化」の理論と聞いて、それなら「成功哲学でも言われている」と私がいうと、妻は「100%例外なく」なのだと強調しました。どういうことかと追及すると、フラクタル物理学に根拠があるという話になり、理論のバックボーンがしっかりしていると知って安心したのです。量子論や相対性理論に興味を持っていた私は、TAWのことがもっと知りたくなりました。

ほどなくして、妻に変化が起きました。表情も明るく外交的になり、長年求めてきた真理にやっと出会えた喜びに満たされて、毎日が実に楽しそうでした。人をこれほど変えるTAWとはどんなものなのか……？ 強い好奇心に動かされるようにして、2013年2月に一色会長のサクセスTAWを受講しました。

横浜に歯科クリニックを開業して8年、無我夢中でやってきて、年齢も50歳を超えました。これから先も今までのようにやっていくのか、あるいは特殊技術に特化した治療をしていくのか、方針を決めかねていました。何かヒントを掴みたいという気持ちが強くありました。

実際に受講したTAW講座は、歯科医師として毎日患者さんを診て治療するという堅い現実からしたら、ぶったまげた理論でした。しかし、同時に「これは本物かもしれない」という期待感も膨らみました。もっと深く知りたくなり、続けてマスターTAWを上級まで受け、メディカルTAW、ファミリーTAW、フラクタル現象学概論、フラクタル現象学レベル1、レベル2と受講しました。

TAWを学んで実践しはじめると、診療中の気持ちの持ち方に大きな変化が生じてきたのです。

■ 患者さんは自分の分身

クリニックで患者さんを診ていると、私の意図とは違う解釈をされたり、誠心誠意やっているにもかかわらず、必ずしも結果がついてこなかったり、患者さんによっては不平不満を言われ

ることさえありました。

これに対して、TAW理論では「360度自分」として、自分の深層意識が周囲に投影されているのだと解釈します。つまり、不平不満を言う患者さんでさえ自分なのということです。

試しに、「患者さんはすべて自分だ」とってみました。まったく私と無関係に何か現象が起きているのではなく、言ってみれば私の分身が不平不満を言ったり、心配になったりしているのであって、私自身が「大丈夫だよ」と前向きな姿勢をしっかりと取れば、私の分身も安心するのだと考えたのです。

すると、私の中で思いも寄らぬ安心感が生まれました。自分や分身とまでいかなかったも、仲間や親族など、その時に一番フィットする感覚で患者さんを見るようにすると、人間関係の圧迫感は薄らぎました。ヘンなことを言い出されるかもしれないという勝手な思い込みもなくなりました。

たとえ新患であっても親族のように感じて「A君、よく来たね！」と思うのですから、以前よりずっとフレンドリーになり、お互いの信頼関係の上に、良い治療をはじめられるようになったのです。

■ スタッフは子どもの頃の自分の投影

クリニックのスタッフに対しても、「360度自分」は適用できました。指示しても返事もせず、ふて腐れていたスタッフに、以前なら「ふざけるな!! 返事もしないでどういうつもりだ!」と怒ったことでしょう。でも今は違いますよ。「ああ、これも自分か〜」と昔を顧みるのです。

子どもの時、母に言われて「はい」と素直に返事をしたこと



クリニックでの治療風景



があったらどうか…？「今やろうと思ってたんだ」とか、なんだかんだと理由をつけて、やらなかったり、先延ばしにしていたのを思い出しました。

私にも言い分があったのです。子どもの時、見るテレビ、やるスポーツ、付き合う友だち、着るもの、食べるものに至るまで母に制限されていました。「ああ、わかったよ」と口では言っても、その度ごとに怒りが蓄積されていたのです。

「あなたがまともな人間にならないといけないから」が母の口グセでした。勉強して良い大学に入って、一流の会社に就職するか、歯医者になること以外はまともな人間になったとは言えない。無様な恰好や仕事をしたら家から追い出す、縁を切る、全てお前のためだと言っていました。口よりも先に手が出て、しばしば叩かれ殴られました。

今思えば、厳しく制限すればグレることはない、母も懸命で、それが母の愛だったのでしょう。今なら母がなぜあれほど厳しかったのか理由がわかります。私は相当反抗的な子どもだったのでしょう。

TAW講座では、「親に対して反抗する気持ちが残っていると、その相似形として、部下から反抗される」と言われました。「お母さん、ごめんなさい」と言うといいと言われて、心の中で1000回近く言いました。さらに、小さな頃の自分に戻り、インナーチャイルド（深層意識の中の子どものようにわがままな自己）に、「しっかり親の言うことを聞いて、ダラダラしないでやりなさい」と言い聞かせることもしました。

言うことを聞かないスタッフも自分だったのですね。それから、スタッフの様子も改善しました。

■ 父の能力のエッセンスは自分にもある

1987年に歯科大学を卒業して国家試験に合格してから、大学院博士課程に進学し、学位を取得することができました。先進医療を学ぶために、15年間大学病院にも勤務しました。その後4年間、父の歯科医院を継ぐつもりで、父の元で働くことになったのですが、そこで、父の治療方針、患者さんへの対応、経営方針に反発を感じて父とうまくやっていくことができなくなりました。



日本バイデンタルリングテスト医学会 認定医授与式

父のクリニックでは会社の社長や役員さんを中心にVIPの治療をしていました。富裕層の方に来ていただいて、自費診療で満足のいく治療をするという方針でした。「そうでなければいけない」と父は私にも強く言っていました。

私がいた大学病院は、町医者では扱いが難しい患者さんを受け入れることが多かったのです。そのような環境からそう思うようになったのかもしれませんが、私は「医者は慈善事業じゃないといけない」と思っていたのです。あらゆる人にやさしく丁寧に接し、どのような人でも患者さんとして受け入れるべきだと。だから、慈善事業をしていない父はおかしいと思ったのです。

今思えば、それは父の方針であり、スタイルであり、生き方であって、他の歯科医とは違う個性の出し方でした。父は歯

科医師として経営能力があり、技術をお金にする力も高かったのです。まさに父のそのような能力を私は批判していたわけですが、いざ自分が独立開業してみると、開業医には父のような能力が非常に必要とされることを痛感したのです。

これに関して、TAW講座では「親の能力はそのエッセンスが自分にもある」といわれました。父に対してイヤだと思っていたのは実はたいへん重要な資質であり、能力であると感じ、しかもそのエッセンスが私にもあるということです。

すべてが思考の現実化だとすれば、父のそのような能力は私が望んだ結果ともいえます。父の能力のエッセンスが私にもあると理解できたとき、父に反発するのではなく、父のその力を使って、私もさらに成長したいと思うようになりました。これは、とても大きな心境の変化でした。

■ 私は自分の世界を創造している

その後受講したメディカルTAWでも多くの示唆が得られました。メディカルTAWの講座中、どんな患者さんに来てもらうかは自分で決められるといった講義内容に、受講生の看護師さんから「それでは、今看ている患者さんを見捨てることになるのではないですか？」と質問が出ました。講師の回答は「それはあなたが考えなくても、それ相応の方がいるので大丈夫です。あなたはあなたの望む世界をつくられたらいいのではないのでしょうか」というものでした。

自分が今の居場所を抜けたら、まだその世界が存在しているのかといったら、TAW理論で考えると、存在するとは言えないことになります。自分が自分の世界を創造しているならば、自分がつくりたい世界、楽観的な世界をつくらばいいことになるのです。

TAWを実践しはじめてから、私のクリニックには我がままを言う困った患者さんは来ませんし、治療途中に具合が悪くなった患者さんもいません。結局、来て欲しい患者さんに来てもらっている、私は自分で自分の世界を創造しているということを強く実感しています。

長年、どういう状況においても自分自身が揺さぶられないような、人生に確固たる根拠を持ちたいと思ってきました。一般的には哲学や宗教観がそれにあたるのでしょうかけれど、私の場合はTAW理論やフラクタル現象学がその役割をしてくれることになりました。それらが私の中心を貫く柱となり、足場を固める礎となりました。さらなる探究や実践が必要ですが、究極的に言えばTAWが本当に理解できれば、この世界のことは何でも説明がつき、理解できるようになるのだと思います。

TAWを知った今では、私が目指す歯科治療を確立する上で方向性が見え、方法論が手に入ったと感じています。青写真はできたので、あとは細かな設計図をどう書いていくかです。

患者さんもそうですが、医療施術者にも元気になってもらいたいという思いから、今後は医療施術者向けにTAWの話をしたいと思っています。

磯部知巳さんが院長を務める デンタルライフクリニック

<http://www.dental-life-clinic.com/>